

ドイツ中世スポーツ史研究の課題

楠 戸 一 彦¹⁾

Results and Problems of the Studies in German Medieval Sport

Kazuhiko Kusudo¹

キーワード：ドイツ、中世、スポーツ史、研究課題

はじめに

周知のように、1970年代から1980年代にかけてスポーツ史研究のための専門誌が相次いで創刊された^{注1)}。これらの専門誌に発表された論文の題目を概観すると、スポーツ史の研究が量的にも質的にも飛躍的に発展していることに気付かされる。というのは、単に欧米のスポーツ史だけでなく、欧米以外の様々な国や地域のスポーツ史が研究の対象となっており、しかも出来事としてのスポーツ史だけでなく、スポーツ史的事実が極めて多様な観点から解釈されているからである。

しかしながら、多様な国と地域におけるスポーツ史に対する近年の研究関心は、時代区分の観点から見ると、19世紀以降の「近代」と「現代」のスポーツに集中しており、それぞれの国あるいは地域における「中世」（ここでは、差し当たり「中世」をキリスト暦で言う9世紀から16世紀までの時代とする）のスポーツに対する研究関心は決して高いとは言えない。例えば、アメリカの『Journal of Sport History』の創刊（1974）から1996年までに発表された論文約240編の内、中世のスポーツに関する論文は僅かに8編（古代に関するものは23編）である。イギリスの『International Journal of the History of Sport』の創刊（1984）から1996年までに発表された論文約290編の内、中世のスポーツに関する論文は16編（古

代に関するものは8編）である。また、我が国の『スポーツ史研究』では創刊（1987）から1997年までに掲載された論稿57編の内、中世のスポーツに関する論稿は8編である。

このように、中世スポーツ史に関する研究は、他の時代の研究と比較すると極めて少ないと言わざるを得ない。とは言え、近年の中世スポーツ史の研究において新たな成果がないわけではない。むしろ、1970年代以降の中世スポーツ史研究を概観すると、そこでは多様な研究成果が産み出されている。以下では、演者が重点的に研究している「ドイツ中世スポーツ史」に焦点を当てて、先ず1970年代以降の研究動向を主として専門誌に発表された論稿に基づいて概観し、次いで今後この分野の研究を進めていく上での課題を考えてみたい。

I 「ドイツ中世スポーツ史」研究の動向

1. 「中世ヨーロッパスポーツ史」研究の動向

ドイツ語で発表された「中世スポーツ史」研究の動向を見る前に、アメリカ・イギリス・カナダにおけるスポーツ史の専門誌における「中世ヨーロッパスポーツ史」に関する研究を概観しておきたい。これら3つの雑誌において確認し得た論文約730編の中で、中世スポーツに関する論稿は約45編ある。これらの中で特に注目し得るのは、アメリカのCarter⁵⁻⁸⁾の研究である。というのは、彼は上述の専門誌に中世スポーツ史に関す

1) 広島大学総合科学部
〒739 広島県東広島市鏡山 1-7-1

1. Hiroshima University, Faculty of Integrated Arts and Sciences,
1-7-1 Kagamiyama, Higashihiroshima, Hiroshima 739

る論文を数多く発表しており、これらの論文をまとめた単行本も上程しているからである。彼の研究関心は主としてイギリスにおける盛期中世(12・13世紀)のスポーツに向けられており、「バイユーのタペストリーにおけるスポーツ」を始めとして、「女性のレクリエーション」「労働と遊び」「農民のスポーツ」「教会とスポーツ」など多岐に及んでいる。この意味で、彼は正に「中世スポーツ史研究者」である。しかしながら、残念なことに、彼の研究の多くは「二次史料」に基づくものであり、「一次史料」を駆使したものではない。

Carter 以外の研究者による中世スポーツ史研究としては、次のような研究を挙げることができる。Hardy¹⁶⁾による「トーナメント」、Henricks¹⁷⁾による「スポーツと社会的階層」、Howell²⁰⁾による「スポーツと女性」、Lindsay²³⁾による「チャーサーのカンタベリー物語とスポーツ」、Massicotte²⁴⁾やMorgan^{30,31)}による「フランスとイギリスのテニス」、McConahey^{25,26)}による「球技の歴史」、McIntosh²⁷⁾による「メルクリアリスの体操論」、Zeigler⁴⁰⁾による「騎士のスポーツ」など。

これらの研究は、いずれも、主としてフランスとイギリスにおける中世スポーツに関する研究である。しかしながら、彼らの研究は単発の発表に留まっており、しかも必ずしも「一次史料」を駆使した研究とは言いがたい。ただ、上述の雑誌における中世スポーツ史に関する研究題目を見ていく気付くことは、例えばスペインやポーランドなどのヨーロッパ諸国以外にラテンアメリカやインドの「中世スポーツ」(「中世」という概念をこれらの国々のスポーツ史に適用できるかどうかという問題はある)が論じられている点である。

最後に、これら雑誌論文以外に、McConahey²⁵⁾の学位論文、Barber²⁾、Barker³⁾、Clare¹⁰⁾、Vale³⁹⁾などによる騎士道とトーナメントに関する一連の研究、Bascetta⁴⁾によるイタリア・スポーツの資料集などの研究を挙げておきたい。

2. 「ドイツ中世スポーツ史」研究の動向

ドイツ語で発表されたスポーツ史の研究も、研

究関心が主として近代以降のスポーツ史に向けられている英米の研究と大差はない。このことは、ドイツで刊行されているスポーツ史の専門誌に発表された論文の題目を概観することによって明らかになる。『Stadion』誌では創刊(1975)から19/20巻(1993/94)までに約270編の論文が掲載されており、この中で「中世スポーツ」に関する論稿は約30編(古代に関するものは約50編)である(これらの論稿はドイツ語だけでなく、英語・フランス語・イタリア語で作成されており、従って中世に関する論文すべてがドイツ中世に関するものではない)。他方、主として第一次世界大戦以後のスポーツ史に関する論文の掲載に重点が置かれている『Sozial- und Zeitgeschichte des Sports』では、約144編の掲載論文のうち中世スポーツに関する論稿は4編(古代に関しては1編)と、当然のことながら少ない。このように、ドイツ語圏のスポーツ史研究においても、研究関心の重点は近代と現代のスポーツ史にあり、中世のスポーツ史に関する関心はそれほど高くはない。以下では、先ず中世スポーツ史を全体的に論じた論稿を取り上げ、次いで中世における個々のスポーツあるいは問題について検討することにする。

先ず、「中世スポーツ史」を全体的に論じたものとしては、Ueberhorst³⁸⁾が編集した『身体運動の歴史』第3巻の1(1980)における「中世の身体運動」が挙げられる。この中で、Niedermann (pp. 70-96)は「騎士と市民の身体運動」の章を担当し、社会史の方法を意識しながら、中世におけるスポーツ活動の動機を解明しようとしている。また、「中世における市民と農民の身体運動」の章を担当したRenon (pp. 97-144)は、文化人類学の概念を使用しながら、民衆生活における「マージナル史」としてのスポーツ史を構想している。しかしながら、彼らの論稿では、中世スポーツに関する新しい解釈の方法は提示されているが、新たな史料の発掘に基づく研究ではない。

次に個々のスポーツあるいは問題に目を転じると、「馬上槍試合(トーナメント)」に関しては、

Fleckenstein¹¹⁾が編集した『中世における騎士のトーナメント』(1985)が最も重要である。1982年秋に「マックスプランク歴史研究所」で開催されたコロキウムに基づいているこの著作には、ヨーロッパ各国から20人の研究者が寄稿しており、ドイツ・イギリス・フランス・イタリア・ハンガリー・ペーメンにおけるトーナメントの歴史だけでなく、「トーナメント団体」や都市におけるトーナメント、戦争とトーナメントやトーナメントでの武装など多岐に渡る問題が論じられており、しかも言語的・軍事的・社会的・経済的などの様々な観点から考察が加えられている。Fleckensteinの著作以外のトーナメント研究としては、この著作に「トーナメント団体」(pp. 500-512)について寄稿したMeyer²⁸⁾が、トーナメントに関する一連の研究を発表している。これらの研究を通じて彼は、中世における「スポーツ大会」としてのトーナメントを明らかにしている。『ローベルト・ドーヴァーのオリンピック競技』(1975)³³⁾で有名なRühl^{34,35)}は、その後の一連の研究においてイギリスとドイツのトーナメントにおける「得点の記録化」あるいは「参加資格」などを明らかにすることによって、スポーツ史的な観点から競技方法の解明に努めている。さらに、Hörrmann¹⁹⁾は16-17世紀の宮廷におけるトーナメントの研究を行い、Kurras²²⁾はトーナメント関係史料の復刻を通じて騎士とトーナメントの関係を明らかにしようとしている。

射撃に関しては、ドイツ各地でその地の射手団体の歴史に関する著作が数多く出版されている。しかしながら、スポーツ史的な観点から射撃に着目した研究は極めて僅かである。Michaelis²⁹⁾は、射手団体の起源が古ゲルマンの「鳥射撃儀礼」と「ギルド共同体」に基づくことを主張した。他方、Schnitzler³⁶⁾は公開射撃大会への招待状の内容を分析することによって、成績・競争・記録といった「近代スポーツの特徴」が既に中世後期の公開射撃大会の中に認められることを明らかにした。剣術に関する研究としては、Hils¹⁸⁾の研究が挙げられる。彼はドイツ語による手書きの剣術史料に基づいて、剣術師範の社会的な地位と活動と

を包括的に明らかにした。また、格闘に関しては、Auerswaldの著作(1539)¹⁾や15世紀から17世紀に至る格闘術の文献⁹⁾が復刻されている。

Gillmeister^{12,13)}はテニスの歴史に関して数多くの成果を発表し、テニス史の研究に関して新たな地平を切り開いた。彼は一連の研究において、比較文学・比較言語学・図像学の方法論を駆使しながら、テニスの起源が「城門の攻防」(pas d'armes)にあることを明らかにした。球戯の外には、Grasshoff^{14,15)}がブリューゲルの絵など図像に基づいて、走跳投などの「民族的運動」を明らかにしている。また、Renson³²⁾も文化人類学の方法論を援用しながら「民族的運動」の解明を行っている。さらに、Strohmeyer³⁷⁾は貴族身分の「体育」について研究を行っている。

以上のようなドイツ語圏における中世スポーツ史に関する研究を全体的に眺めてみると、研究の関心が主として「トーナメント」に向けられているように思われる。

II 今後の課題

ドイツ中世スポーツ史研究に限らずスポーツ史研究における今後の課題は、各々の研究者の問題関心によって極めて多様であろう。以下では、1)実証的研究の必要性、2)史料の整理、3)ドイツ中世スポーツ史研究における具体的な課題、の3つの観点から今後の課題を考えてみたい。

1) 実証的研究の必要性。1970年代以降の研究における一つの特徴は、上述のように、文化人類学や言語学あるいは社会学の概念や方法論を援用したスポーツ史的事実の解釈にあるように思われる。そこでは、「スポーツとは何か」という問題意識の下に、例えばスポーツの「歴史的意味」や「社会的意味」のようにスポーツ史的事実の「意味」が様々な観点から問われる。もちろん、「スポーツの意味」を問う研究がスポーツ史研究の重要な課題であることは言うまでもない。しかしながら、「歴史的事実の意味」を問う研究では、スポーツ史的事実の理論的あるいは問題意識的な解釈が優先され、一次史料に基づく「歴史的事実の再構成」という歴史学本来の課題がなおざりにさ

れる傾向がある。「歴史的事実の解釈」を重視する研究では、具体的かつ個別的な議論よりも「全体的な」議論に傾きやすく、しかも「解釈の妥当性」を巡る論議が「無限後退」に陥る危険性もある^{注2)}。

他方では、「スポーツは如何に行われたか」という問題設定も、スポーツ史研究における独自性を考えるならば、重要な課題であるように思われる。というのは、この問題設定の下では、「スポーツ」という概念の内包から導出される諸問題が追求されるからである。例えば、「スポーツとは競争的身体運動である」という定義からは、競争の諸条件・参加資格・成績の評価方法・運動形態・トレーニング方法など、非常に多様な問題が導出される。このような問題の歴史学的な解決が、むしろ「スポーツ史研究の独自性」を保証する要件となるのではないだろうか。

2) 史料の整理。歴史学における実証的研究を支えるのは、言うまでもなく「史料」である。ドイツの中世スポーツに関しては、既に19世紀以来多くの一次史料の存在が明らかにされている。しかしながら、こうした一次史料に関する史料集成あるいは二次史料のビブリオグラフィは必ずしも十全ではない。なるほど、KrügerとMcClelland²¹⁾はヨーロッパの中世スポーツに関する一次史料と二次史料に関する文献目録を作成している。しかし、この文献目録に再録された一次史料は主として16世紀と17世紀に集中しており、12世紀から15世紀における一次史料に関しては僅かしか再録されていない。この意味では、「中世スポーツ史」研究に取り組む研究者のために、一次史料と二次史料に関する文献目録集が是非とも必要である。

他方、例えばドイツ中世における射撃の競技規則の変遷を解明しようとする、先行研究で指摘された一次史料だけでは、十分な解明はできない。というのは、問題設定に対応する一次史料の所在が不明であるからである。従って、中世スポーツ史に関する研究では、問題設定によっては新しい史料の発掘が不可欠である（ドイツの図書館や文書館には、中世スポーツ史に関する史料が未

利用のまま眠っている）。新しい史料の発掘の助けとなるのが、19世紀以来ドイツ各地で設立された「歴史協会」が刊行している雑誌における実証的研究である。こうした雑誌では中世スポーツに関する史料の所在が紹介されている。

3) 具体的課題。最後に、ドイツ中世スポーツ史研究の具体的な課題として次の点を指摘しておきたい。1) 個々のスポーツにおける競技規則とその変遷の解明。ドイツ中世における個々のスポーツの競技規則の変遷という観点から見れば、僅かに「公開射撃大会」に関する競技規則が多少なりとも明らかになっているだけであり、トーナメント・剣術・格闘・球戯（特に九柱戯）・走跳投などのスポーツにおける競技規則は不明なままである。2) 農民のスポーツ。農民あるいは農村におけるスポーツに関しては、史料的な制約もあり、ほとんど研究されていない。3) 中世スポーツにおける「身分制」。従来の中世スポーツ史研究においては、主として貴族・市民・農民といった枠組みに基づいて論述が進められてきた。しかし、例えば都市住民は市民権を有する「市民」と有さない「庶民」とに分けられ、各々の身分によってスポーツへの参加資格が異なっていた。従って、中世スポーツにおける「身分制」の問題に関しては、より一層詳細な分析が必要になってくる。また、馬上槍試合やダンスに見られるように、庶民による貴族のスポーツの模倣の問題もある。

いずれにしても、歴史的事実は無限に多様であり、研究者の観点（あるいは研究関心）も無限に多様であることを考慮するならば、ドイツ中世スポーツ史の研究も無限の課題を残していると言えよう。

注

注1) カナダでは『Canadian Journal of History of Sport and Physical Education』が1970年に（1981年から『Canadian Journal of History of Sport』に誌名変更）、アメリカでは『Journal of Sport History』が1974年に、ドイツでは『Stadion. Zeitschrift für Geschichte des Sports und der Körperkultur』が1975年（1984年から『Internationale Zeitschrift

für Geschichte des Sports』に誌名変更)に、『Sozial- und Zeitgeschichte des Sports』が1987年に、イギリスでは『British Journal of Sports History』が1984年(1987年から『International Journal of the History of Sport』に誌名変更)に、我が国では『スポーツ史研究』が1987年に創刊されている。

注2) 歴史研究における「定義」「意味」「解釈」「説明」などの問題に関しては、拙稿の「研究ノート：スポーツ史学の方法論的前提」(広島大学総合科学部紀要Ⅳ 保健体育学研究, 7 (1989), 1-28)を参照されたい。

文 献

- 1) Auerswald, F. von (1987) Ringer-Kunst: 85 Stücke zu Ehren Kurfürstlichen Gnaden zu Sachsen. Hans Lufft: Weinheim 1987.
- 2) Barber, R. and Barker, J. (1989) Tournaments. Jousts, Chivalry, and Pageants in the Middle Ages. The Boydell Press: Woodbridge.
- 3) Barker, J. (1986) The Tournament in England, 1100-1400. The Boydell Press: Woodbridge.
- 4) Bascetta, C. (1978) Sport e Giuochi: Trattati et Scritti dal XV al XVIII Secolo. Edizione II Polifilio: Milano.
- 5) Carter, J. M. (1981) Ludi Medi Aevi: Studies in the History of Medieval Sport. Eisenhomer Hall: Manhattan.
- 6) Idem (1984) Sports and Pastimes of the Middle Ages. University Press of America: Lanham/New York/London.
- 7) Idem (1992) Medieval Games: Sports and Recreations in Feudal Society. Greenwood Press: New York/Westport/London.
- 8) Carter, J. M. and Arnd Krüger (Eds) (1990) Ritual and Record: Sport Records and Quantification in Pre-Modern Societies. Greenwood Press: Westport.
- 9) Chronik alter Kampfkünste. Zeichnungen und Texte aus Schriften alter Meister, entstanden 1443-1674. Weinmann: Berlin 1990⁴.
- 10) Clare, L. (1983) La Quintaine la Course de Bague et le Jeu des Têtes. Centre National de la Recherche Scientifique: Paris.
- 11) Fleckenstein, J. (Hrsg.) (1985) Das ritterliche Turnier im Mittelalter. Vandenhoeck & Ruprecht: Göttingen.
- 12) Gillmeister, H. (1986) Aufschlag für Walther von der Vogelweide: Tennis seit dem Mittelalter. Knauer: München.
- 13) Idem (1990) Kulturgeschichte des Tennis. Wilhelm Fink: München.
- 14) Grasshoff, K. (1975) Peter Bruegels d. Ä. Gemälde "Heuernte" und "Kornernte". Eine ikonographische Auswertung für die Geschichte der Leibesübungen in der Mitte des 16. Jahrhunderts. Stadion 1(1): 90-102.
- 15) Idem (1977) Leibesübungen und Gesellschaft im Gemälde "Melancholia 1558" des Matthias Gerung. Stadion 3(1): 44-59.
- 16) Hardy, S. H. (1974) The Medieval Tournament: A Functional Sport of the Upper Class. Journal of Sport History 1 (1974) 2: 91-105.
- 17) Henricks, T. S. (1982) Sport and Social Hierarchy in Medieval England. Journal of Sport History 9(2): 20-37.
- 18) Hils, H.-P. (1985) Meister Johann Liechtenauers Kunst des langen Schwertes. Peter Lang: Frankfurt a.M./Bern/New York.
- 19) Hörmann, M. (1989) Ringrennen am Stuttgarter Hof. Die Entwicklung eines Ritterspiels im 16. und 17. Jahrhundert. Sozial- und Zeitgeschichte des Sports 3(1): 50-69.
- 20) Howell, R. and Howell, M. L. (1986) Women in the Medieval and Renaissance Period: Spectators Only. Canadian Journal of History of Sport 17(1): 11-37.
- 21) Krüger, A. und McClelland, J. (1984) Die Anfänge des modernen Sports in der Renaissance. Arena Publications: London.
- 22) Kurras, L. (1992) Ritter und Turniere. Ein höfisches Fest in Buchillustrationen des Mittelalters und der frühen Neuzeit. Basler Verlag: Stuttgart/Zürich.
- 23) Lindsay, P. L. (1985) Attitudes to the Body in Geoffrey Chaucer's Canterbury Tales. Canadian Journal of History of Sport 16(1): 1-13.
- 24) Massicotte, J.-P. et C. Lessard (1986) Role Ethno-Historique de la Raquette. Canadian Journal of History of Sport 17(1): 1-10.
- 25) McConahey, M. W. (1974) Sports and Recreations in Later Medieval France and England. University of Southern California, Ph.D.
- 26) Idem (1976) Notes on Some Later Medieval Peasant Ball Games. Canadian Journal of History of Sport and Physical Education 7(2): 70-73.
- 27) McIntosh, P. C. (1984) Heironymus Mercurialis

- 'De Arte Gymnastica': Classification and Dogma in the Sixteenth Century. *The British Journal of Sports History* 1(1): 73-84.
- 28) Meyer, W. (1992) Buhurt, Tjost, Turnei und Hochzeit. Ein Arbeitsbericht zur Geschichte des mittelalterlichen Turnierwesens. *Stadion* 18(2): 159-208.
- 29) Michaelis, H.-T. (1985) Schützengilden. Ursprung-Tradition-Entwicklung. Keyser: München.
- 30) Morgan, R. (1985) The Tuscan Game of Palla. A Descendant of the Medieval Game of Tennis. *Stadion* 11(2): 176-192.
- 31) Idem (1996) A Fifteenth-Century Tennis Court in London. *The International Journal of the History of Sport* 13(3): 418-431.
- 32) Renson, R., P. P. de Nayer and Ostry, M. (Eds.) (1976) *The History, the Evolution and Diffusion of Sports and Games in Different Cultures*. BLO-SO: Brussel.
- 33) Rühl, J. K. (1975) *Die "Olympischen Spiele"* Robert Dovers. Winter Universitätsverlag: Heidelberg.
- 34) Idem (1988) Zur Leistungsquantifizierung im spätmittelalterlichen Turnier. *Brennpunkte der Sportwissenschaft* 2: 97-111.
- 35) Idem (1990) German Tournament Regulations of the 15th Century. *Journal of Sport History* 17(2): 163-182.
- 36) Schnitzler, T. (1993) Quantification of Results in Late Medieval Crossbow and Rifle Shooting. *The International Journal of the History of Sport* 10(2): 259-268.
- 37) Strohmeyer, H. (1977) Physical Education of Noblemen in the Austrian Baroque Culture. *History of Physical Education and Sport* 3: 71-88.
- 38) Ueberhorst, H. (Hrsg.) (1972-1982) *Geschichte der Leibesübungen*. 5 Bde. Bartels & Wernitz: Berlin.
- 39) Vale, J. (1982) Edward III. and Chivalry. Chivalric Society and its Context 1270-1350. The Boydell Press: Woodbridge.
- 40) Zeigler, E. F. (1993) Chivalry's Influence on Sport and Physical Training in Medieval Europe. *Canadian Journal of History of Sport* 24(1): 1-28.
- 41) 楠戸一彦 (1989) 研究ノート: スポーツ史学の方法論的前提, 広島大学総合科学部紀要Ⅵ 保健体育学研究, 7: 1-28.